

令和7年度 学校経営計画書

石川県立門前高等学校

校長 畠 洋 介

1 教育目標

- (1) ふるさとに誇りを持ち、自ら学習を調整することで身につけた資質・能力を活用することにより、地域の活性化に貢献できる人間の育成
- (2) 高い規範意識と活力に溢れ、自分の良さや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働できる人間の育成

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 目標管理型校務運営と組織的・協働的業務の推進
 - ・教職員は、教育目標実現のため、分掌・学年・教科・個人において、PDCAサイクルで現状分析を行い、改善に努めている。
 - ・教職員は、分掌・学年・教科において組織的・協働的業務推進に努めており、働き方改革につなげている。
- ② 魅力ある教育活動の推進
 - ・3年間の輪島市魅力化プロジェクトが安定的な入学者数の確保と進路実現に結びついている。
 - 野球部指導体制の充実（野球指導アドバイザー、部活動指導員の配置）と強化策の成果（2大会連続県大会ベスト8）
 - 学習支援センタースタッフと協働した学習指導による生徒の学力保障と進路実現
 - ・「災害からの復興」を意図した門前町・總持寺通り商店街との協働による探究活動と、地域社会発展の担い手の育成
 - ・連携型中高一貫教育校の特性を活かした地元中学校との教育活動の推進
- ③ 2つのコース（普通・キャリア）の特性を生かし、生徒一人ひとりの進路希望に応じた方策を推進していく必要がある。
- ④ 異なる災害や状況を設定した防災訓練を実施し、実施後の振り返りアンケートで生徒、教員が減災に対する意識を高めている。
- ⑤ 多様な生徒の増加に伴い、授業においてインクルーシブ教育をはじめ、個々の生徒に達成感や自己有用感を与え自尊感情が高まるような授業改善をする必要がある。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 「総合的な探究の時間」、部活動、生徒会によるボランティア活動等を通じて「門前町・總持寺通り商店街の復興」について探究し、取組を提案・実践できる資質・能力を育成する。
- ② 門前町・總持寺通り商店街の方々との交流を通して、他者への思いやりと敬愛する心を育む。
- ③ 低学年次より進路意識を醸成し、個々の卒業後の進路実現に向けて、自主的学習に努力し続けることができる生徒を育てる。
- ④ 「GIGAスクール構想」を通して個別最適な学びによる学力向上を図り自己の進路実現や部活動に努めさせ、目標達成を通して人間形成と地域の活性化に貢献できる人材の育成を図る。
- ⑤ 様々な災害や状況下でも「自分の命は自分で守る」行動ができる資質・能力を身につける。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 「生徒は教師を映す鏡である」ことを意識して生徒の目線で自身の教科・生徒指導を振り返りながら、特に低学年次の教科指導力・生徒理解力を高める工夫・改善に取り組む。
- ② 教員が主体的に「門前町・總持寺通り商店街の復興」をテーマとした3年間の系統的探究活動に取り組むことで、生徒の潜在的能力を引き出す「探究活動指導力」を身につける必要がある。
- ③ 本校両コースの特性を理解して教育活動に取り組むとともに、低学年次から進路意識を醸成できる資質・能力を養成する。
- ④ 教員一人ひとりの「自分たちの学校や生徒は自分たちで守る」という学校防災意識が、平時から持続できるような組織作りと機会作りが必要である。
- ⑤ GIGAスクール構想を活用した目標管理型の教科指導・分掌業務を効率的・戦略的に推進し、ワークライフバランスとの両立を図りながら、質の高い教育活動を実践する。

3 今年度の重点目標

- (1) 全教育活動を通して個々の生徒が達成感や自己有用感を感じ自己肯定感が高まるよう、授業改善等で教員の生徒指導力、教科指導力、生徒理解力を高める。
- (2) 生徒・教員が「門前町・總持寺通り商店街の復興」をテーマとした3年間の系統的探究活動によって探究力を身につけるとともに、災害から学んだことを地域貢献活動を通じて活かす。
- (3) 「GIGAスクール構想」を通して低学年次より個別最適な学びに取り組みせることで両コースの特性を高め、卒業後の生徒の多様な進路実現につなげる。
- (4) 「危機管理マニュアル」の見直しを図り、教員・生徒が非常時に適切な行動ができる資質・能力を高め、減災につなげる。また、生徒が安心して学校生活を送れるよう安全管理を徹底する。
- (5) 組織的・協働的に目標管理型校務運営による業務改善を進め、ワークライフバランスと教育活動の両立を実践する。